

青少年の体験活動の推進方策に関する検討委員会

兵庫県の自然学校 (長期宿泊体験活動)

平成28年10月13日(木)

兵庫県教育委員会事務局
義務教育課 副課長 近都 勝豊

兵庫県の自然学校

- 「こころ豊かな人づくり懇話会」〔提言〕

人は自然とのふれあいの中で自然の神秘、優しさ、恐ろしさなどに感動し、豊かな感性、問題解決能力、粘り強さなどを培うとともに、人とのふれあいを通して、生きる喜びや苦しみを知り、思いやり、協調性、社会性などを身につける。(S62)

- 自然学校の実施(S63) 113校
- 自然学校の全校実施(H3) 815校
- 南但馬自然学校の開校(H6)



1 兵庫型「体験教育」

事業の名称	対象学年	実施時期・期間	活動内容	開始年度
環境体験事業	公立小学校 3年生	年間3回以上	里山、田畑、水辺などにおける校外環境体験活動	H19
自然学校推進事業	公立小学校 5年生	4泊5日以上	自然の中での集団宿泊活動	S63
青少年芸術体験事業 ～わくわくオーケストラ教室～	公立中学校 1年生	年間1回 (年間40公演)	兵庫芸術文化センター管弦楽団による鑑賞教室	H18
地域に学ぶ 「トライやる・ウィーク」	公立中学校 2年生	6月、11月を中心とする1週間	地域における社会体験活動	H10
高校生ふるさと貢献事業 ～トライやる・ワーク～	県立高等学校 1年生を中心	年間を通じて 随時	クラス・部活動等グループ単位による地域貢献活動	H17
高校生就業体験事業 ～インターンシップ推進プラン～	県立高等学校 2年生を中心	年間3日～ 5日程度	事業所等における就業体験活動	H17

2 自然学校推進事業

1 趣旨

学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、児童が人や自然、地域社会とふれ合い、理解を深めるなど、長期宿泊体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、「**生きる力**」を育成することを目的とする。

＜参考＞平成23年度環境体験事業 趣旨（**小学校3年生**で実施）

都市化や少子化、人間関係の希薄化など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、命をおろそかにする事件が頻繁に発生している。そこで、人間形成の基礎が培われる時期に、**命の営みやつながり、命の大切さ**を学ぶため、自然の中で一粒の種を世話し続けることにより、花が咲き実がなるといった体験など**自然に触れあう体験型環境学習**を行う。

- 2 実施対象 小学校5年生の児童
- 3 実施日数等 4泊5日以上とする
- 4 利用施設 県内の施設を利用する
- 5 実施内容

- (1)日常生活では経験できない感動体験など、自然学校で指導することにより効果が上がる活動や長期宿泊体験の意義を踏まえた活動を行う。
- (2)施設に宿泊し、周辺の自然についての学習や地域とのかかわりのある活動を行う。



—活動例—(児童や学校の実態に応じて創意工夫すること)

○自然観察 ○登山・ハイキング ○オリエンテーリング ○ナイトハイク
○ 星空観察 ○自然の素材を使ったクラフト ○「隠れ家」づくり ○川遊び
○野外炊事 ○テント泊 ○キャンプファイヤー ○魚釣り ○カヌー・カッター
体験 ○課題研究(環境・気候・生物・産業・歴史・文化財・民話等) ○地
域との交流(地域の暮らし・伝承遊び等) ○伝統工芸・芸能学習 ○勤労
体験(農林業等) ○福祉施設との交流 ○国際交流体験 ○奉仕活動など

(3) 自然学校のねらいを明確にし、自然学校の教育効果を高めるための**事前・事後活動の充実**に留意する。

(4) 小学校段階における体験活動を充実する観点から「環境体験事業」との系統性や関連性を踏まえるとともに、**児童がプログラムの企画を行う**など、児童の主体的な活動がなされるよう配慮する。

(5) 自然学校の計画・実施にあたっては、特に次の点を重視した取組を進める。

① 自然学校と他の教育活動との関連を図る取組

② 事前・事後等の学習活動の一層の充実

③ 学校では得難い体験活動プログラムの一層の充実

④ 集団への連帯意識を高め、社会性や自立性等を育むための集団活動の充実

⑤ 子どもの成長過程を踏まえた小学校6ヶ年を見通した系統的な体験活動の実施

⑥ 自然学校の教育効果等について家庭や地域との一層の連携を図る取組



6 指導員等

自然学校の効果的な実施を図るため、教員の外に体験活動の指導に当たる**指導員**、その補助に当たる**指導補助員**及び**救急員**を置くものとする。



7 教員の勤務について

(1) 教員が引率指導業務に従事する期間は、原則として**2泊3日まで**とすること。また、特別な家庭事情のある教員については、日帰りも含めて弾力的に対処すること。

(2) **養護教諭**を救急員等に当てるなどの引率業務は行わないこと。

8 交付金 H23～

○対象となる経費（例示） * S63～H13は2/3県補助、H14～H22は1/2県補助

技術指導経費	専門家、技術者に指導を委託する場合の講師等に要する謝金等
指導補助員経費	指導補助を行う指導補助員及び応急措置、看護等を行う救急員に要する謝金等
交通費	自然学校の間となる施設等への移動及び帰校等に要するバス借上等の交通費
活動運営経費	体験活動の運営及び指導等に必要な資料等に要する経費
要保護・準要保護に係る食事代等に要する経費	要保護・準要保護児童に係る食事代、教材費等の負担に要する経費

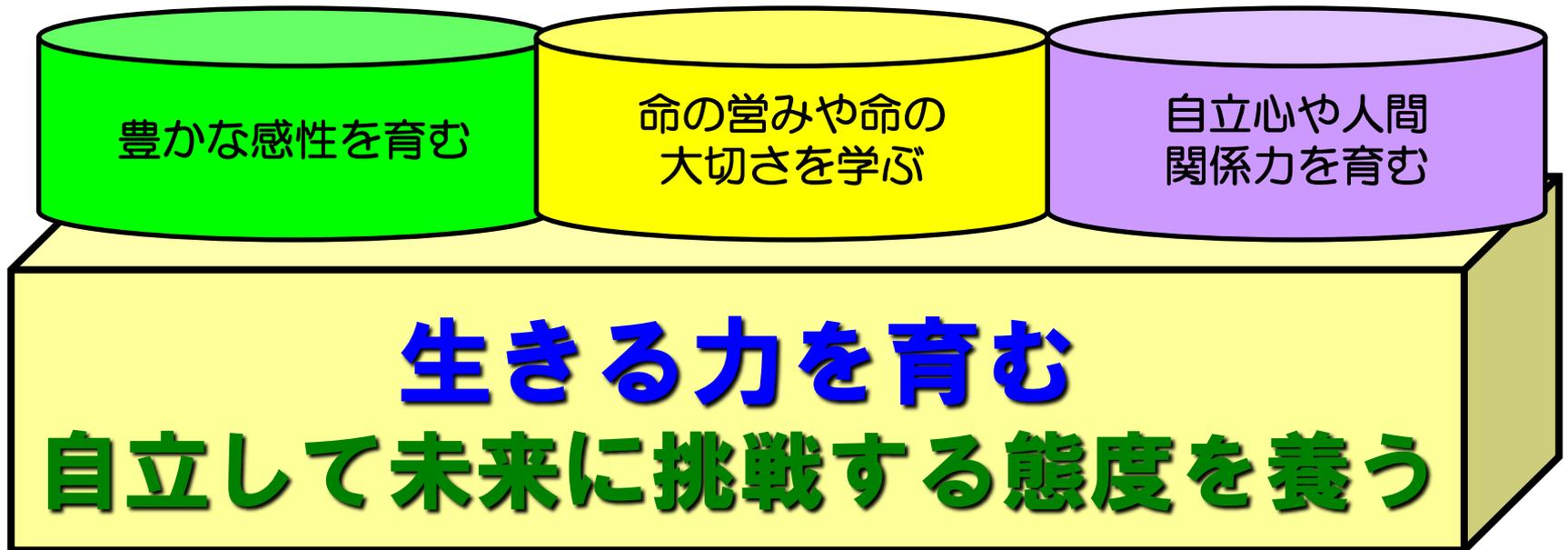
平成27年度 自然学校に係る活動実施状況

- 764校、630グループ、49,211名 参加
- 技術指導員 882名
- 指導補助員 2,896名
- ボランティア 102名
- 救急員 1,024名
- 保護者負担額
平均8,949円
最高19,697円
最低 3,731円



自然学校で何を学ぶの？

自然学校実施の目的



実施から29年(県民の約3割が経験)

こんな自然学校に！

I 学校教育としての自然学校

- 1 学びの場を自然の中に
- 2 目標を持った自然学校に
- 3 目標にあった活動形態を
- 4 評価を大切に
- 5 子どもたちに「ふりかえり」の時間を

II プログラムや活動の工夫

- 1 「しかけ」のある自然学校に
- 2 「ゆとり」と「主体性」のあるプログラムを
- 3 本物に出会う感動体験を
- 4 「生きる力」を

休暇村竹野海岸コウトリキャンプ場

但馬地区民宿

県立兔和野(うわの)高原
野外教育センター

尼崎市立美方高原自然の家

鉢伏高原等民宿

県立南但馬自然学校

丹波少年自然の家

西宮市立山東自然の家

嬉野台生涯教育センター

多可町青年の家

姫路市立藤ノ木山
野外活動センター

神戸市立自然の家

姫路市立梯野外
野外活動センター

三木ホースランドパーク

県立いえしま自然体験センター

国立淡路青少年交流の家

兵庫県内の主な 自然学校宿泊施設



生活棟

南但馬自然学校に到着した
児童



家族への葉書





大屋根広場の中



工作室(但馬ふるさと館)



自然物クラフト



活動例「自然に親しむ」

南但馬自然学校

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	入校	自然散策ハイキング	早朝登山	自然物クラフト	野遊び
	施設散策 ネイチャーゲーム	バードウォッチング アニマルトラッキング等 発表会(振り返り)	詩を作る (振り返り)	展示会 (振り返り)	退校
	ナイトハイク	テント泊	ボンファイヤー		

技術指導員

こけ玉づくり



竹田城の説明



草木染め



地域との交流

しめ縄づくり



稲刈り体験



座禅体験



グラウンドゴルフ



地域住民による指導

夏の生き物探し



山菜(アブラコシ)探し



キノコ探し

ヒノキの
伐採



漁師による地曳き網と魚さばき



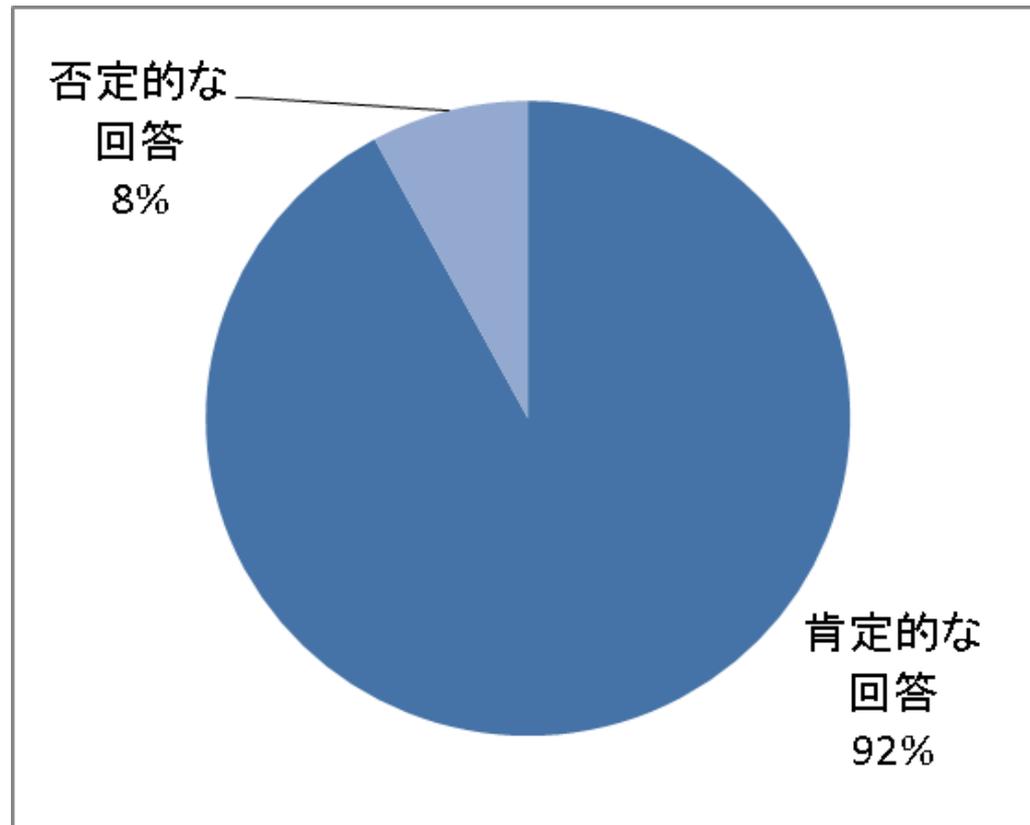
児童の声

- キャンプファイヤーのスタンプの計画の時に少し言い合いをしたけど、協力してみんなで考えておもしろいスタンプができた。
- カレー作りで野菜を切ってご飯も飯ごうで炊き、一生懸命にがんばって作ったカレーは世界一おいしかった。
- 田植え体験をしました。私は初めてなので、とても大変に感じました。こんな大変なことを昔の人はずっとやり続けていて、すごいなと感心しました。

保護者の声

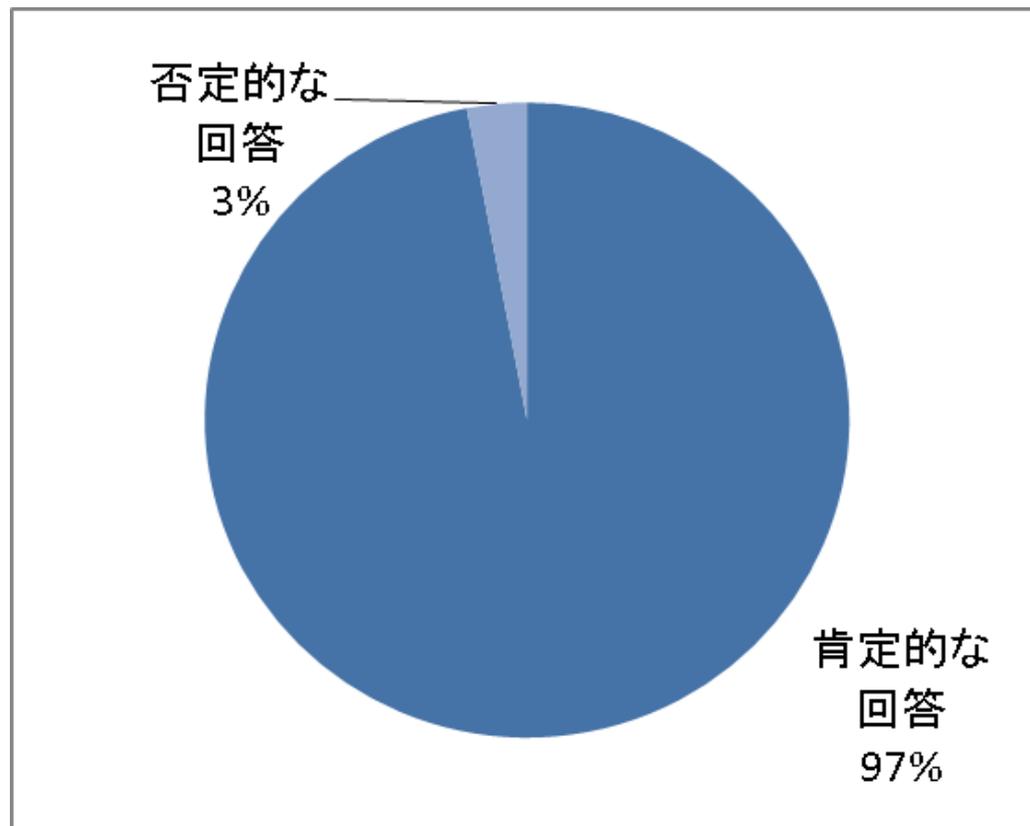
- 自然学校終了後、わがままを言って困らせることが少なくなったように思いますし、自分に自信が持てるようになったかなとも思います。末っ子ですのでどうしても甘やかしていましたが、私も子離れしないと思います。
- 自然学校から帰ってきてからの第一声が「もう一週間泊まりたかった」でした。よほど楽しかったんだなと思う反面、親としてはちょっと寂しかったです。一週間見ないと大きくなったなと感じ、少しずつですが、家でも自分なりの役割を考えて行動できるようになってきていると思います。

自分の力で解決やできることが増え、成長を感じた



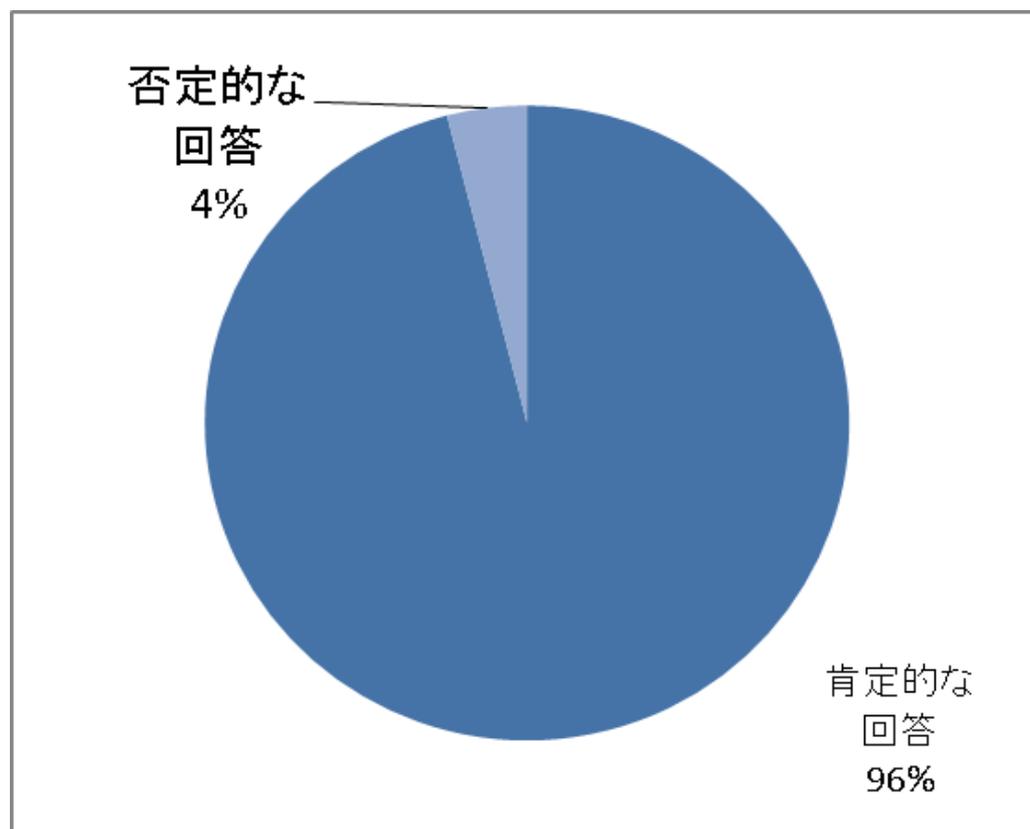
平成27年度自然学校のアンケートより 対象:54校 4,455人
肯定的な回答:当てはまる、どちらかといえば当てはまる

自然学校の活動の中で、 友だちと協力することの大切さを感じた



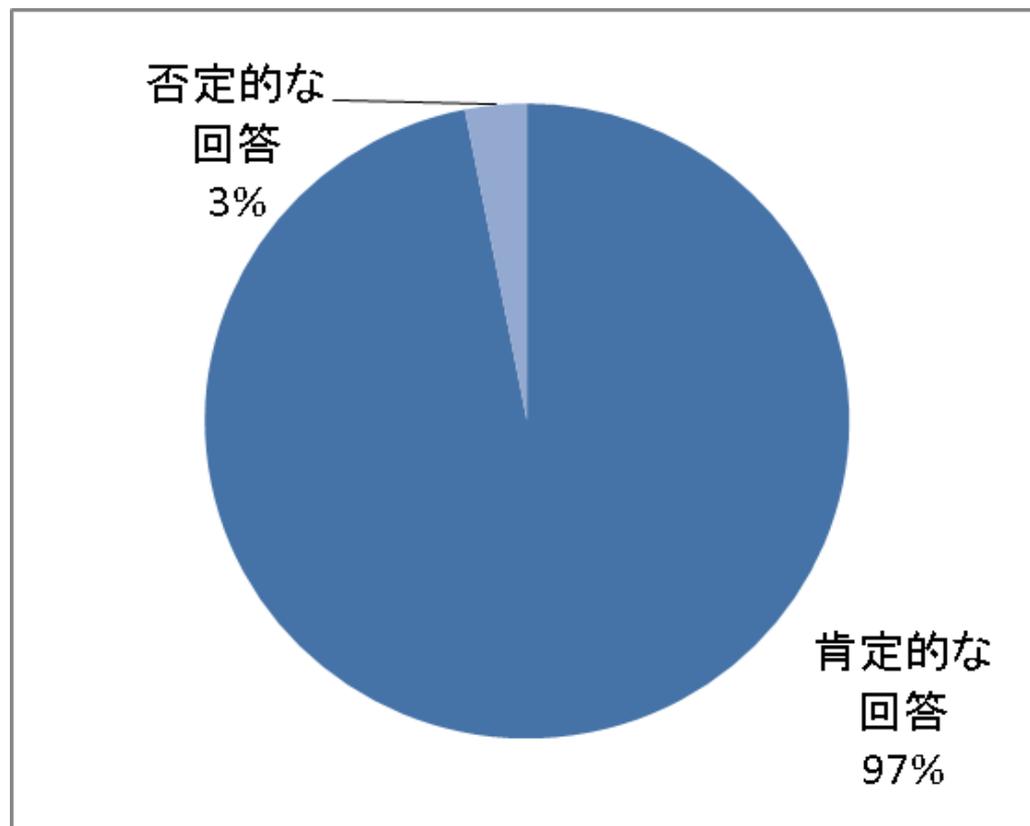
平成27年度自然学校のアンケートより 対象:54校 4,455人
肯定的な回答:当てはまる、どちらかといえば当てはまる

自然学校の中で、自然の素晴しさや美しさ、おそろしさなどを感じた



平成27年度自然学校のアンケートより 対象:54校 4,455人
肯定的な回答:当てはまる、どちらかといえば当てはまる

自然学校の経験を これからの学校生活に活かしていきたい



平成27年度自然学校のアンケートより 対象:54校 4,455人
肯定的な回答:当てはまる、どちらかといえば当てはまる

自然学校実施上の課題

- ・ **プログラムのマンネリ化(ねらいの再確認)**
- ・ 危険動物出現における**リスク管理**
(クマ・ヤマビル・シカ・スズメバチ・マムシ等)
- ・ 危険を伴う活動における**リスク管理**
- ・ 雨プログラムの開発
- ・ 教員間、教員と指導補助員間の連携
- ・ 人的配置の確保
- ・ ねらいの達成状況の検証
- ・ **指導者の資質の向上**



自然体験活動1日講座

今後の自然学校の在り方

— 自立へいざなう自然学校へ —

本物に出会う感動体験

「もっと知りたい」「自分もやってみたい」という意欲の醸成

- ・絆に気づき、感謝する体験



社会的自立へのステップ

体験から知への学習へ

- ・「体験活動＋探求型」の学習の場へ
- ・体験活動での学びをその後の生活や学習に活かす

